

あなたに贈る健康へのメッセージ ― 知ってください病院のこと、身体のこと

2016
第21巻
第4号

医科大どおり

CONTENTS

- 肝炎の新薬について
- 病棟紹介（新館7階東病棟）
- 病棟薬剤師について
- リハビリニュース
- 研修医紹介
- お知らせ
- はじめまして
- 私の好きな風景
- 医科大Q&A



金沢医科大学臨床研究棟屋上より見た金沢医科大学病院

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

医科大どおり

2016年 季刊誌 第21巻 第4号 発行／金沢医科大学病院

編集／金沢医科大学病院ニュース編集委員会

はじめまして

お父さん、お母さん、お姉ちゃん達と一緒に、それぞれがあたたかい家庭で育ってきた私達は、「自分達もそんな家族をつくりたいなあ。」そんな想いを持つようになりました。その気持ちとは反対に、なかなか授かることができなかった私達にとって待望の赤ちゃんは周囲の望みでもあり、しっかりと育てているのかとても不安に感じていたこともあります。初産ということもあり、陣痛のときは何も分からず、力が入りっぱなしでしたが、力の抜き方、痛みの逃し方を助産師さんに優しく教えて頂き、無事にとり上げて頂きました。産まれたての息子が泣きながら顔をしかめるのを見たときは、言葉にならないくらいの感動を覚えました。これも、家族や医科大の皆さんのお蔭だと感謝しています。与えられた命と共に、全力でこれからの人生を歩んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への“説明と同意”を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病状や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べることができます。
- 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン（他の医療機関の医師の意見）を求めることができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病棟のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



中村さま

- おとうさん 晴樹さま
- おかあさん 麻美さま
- 赤ちゃん 碧(あお)くん
平成28年1月27日生
2,700g 男の子



私の好きな風景

北陸新幹線が開業してまもなく1年経過するが、いろいろな方面で新幹線効果があったようである。金沢駅のすぐそばにある駐車場の屋上から、金沢駅を発着する新幹線の時刻表を見てバックの景色に最適と思われる場所や車両が美しく見える位置に新幹線が通過する瞬間を狙って興奮しながらカメラのシャッターを押し続けた。



撮影：出版メディア業務課 中谷 渉

お答えします！医科大Q&A

Q 冷え症の改善方法はあるですか？（20代女性）

A 冷え症には男女差があり、男性に比べ女性は筋肉量が少なく、月経周期によっても左右され冷える方が多いです。養生としてのライフスタイルがとても重要です。

具体的には、ファッションで冷えやすい恰好をしない、首の周りにストールをおしゃれに使う、温かくなる食材を摂取するなどが挙げられます。

身近でビタミンEを多く含むアーモンドや煎茶、焼き海苔などの食材を摂取をしてみるのも手です。

冷えは、新陳代謝の低下や水分代謝の悪化、ストレスの関与など様々な原因によって引き起こされます。集学的医療部総合診療センター女性総合外来または、漢方外来の受診にて処方薬がでますので一度、医師の診断を受けてみてはいかがでしょうか。

（総合内科学 准教授 赤澤 純代）

肝炎の新薬について

C型肝炎の治療は新薬で変わる！

C型肝炎とは

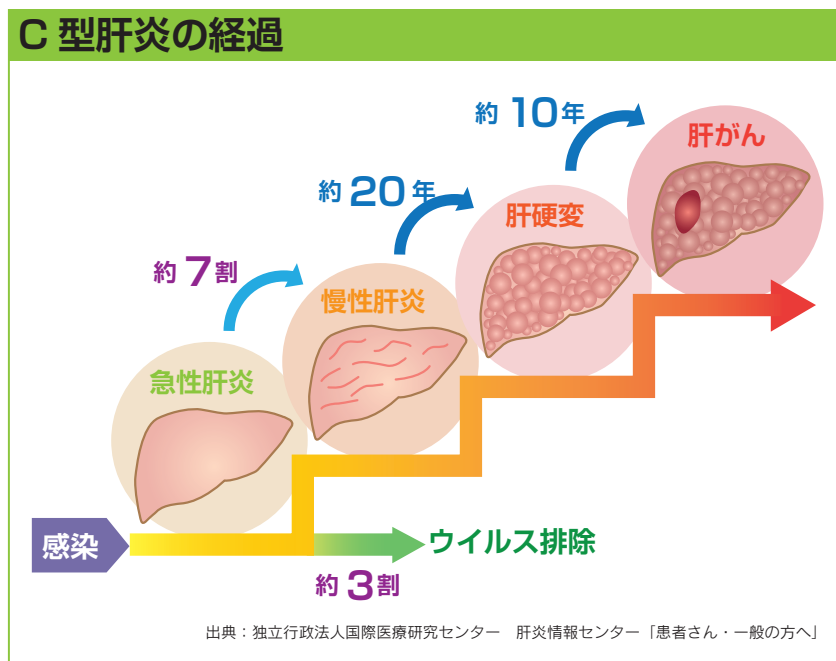
C型肝炎ウイルスによっておこる肝臓の病気です。C型肝炎にかかっている方は全国で100万人～200万人いるといわれていますが、自覚症状がないことからC型肝炎にかかっていることを知らない方もいます。C型肝炎はC型肝炎ウイルスを排除する治療をしなければ肝硬変、肝がんになる怖い病気です（下図）。

続々と新薬登場

C型肝炎の治療はウイルスを排除することにより、今まではインターフェロンという注射で治療してきましたが、中には副作用が強く出る患者さんもおいでになるのが現状です。新薬はウイルスが増えるのを抑える飲み薬で、インターフェロンの副作用で治療できなかった方や中止した方、インターフェロンが効かなかった方、すでに肝硬変になってしまっている方や高齢の方に対しても使用され、きわめて有効であることが明らかになってきています。

当院での治療

血液検査で肝臓の働きやウイルス量を調べ、CT検査や超音波検査を行うとともに、肝炎の状態をみるため肝生検（肝臓に針を刺し肝臓の組織の一部を採取して顕微鏡で調べる検査）をします。新薬は高価な薬なので、医療費助成制度の手続きが必要となります。助成を受けるためには、原則として肝臓専門医の診断書が必要ですので、気になる方は肝胆膵内科を受診してください。



C型肝炎の経過

（記：肝胆膵内科 教授 土島 睦）

病棟紹介（新館 7 階東病棟）

新館 7 階東病棟は、呼吸器内科と呼吸器外科の病棟です。病床数は 34 床で、呼吸器重症室 9 床を有しています。患者さんは、肺炎や喘息発作など主に肺の疾患の方が多く、内科的治療や外科的手術を受けられる方が入院されています。病棟看護師は、看護師 28 名・看護補助員 4 名の 32 名で、今年度入職した新人から 30 年以上のベテラン看護師で構成されています。私たちは『チームワークを大切に、そして患者さんの気持ちに寄り添った看護が提供できる』ように日々励んでいます。



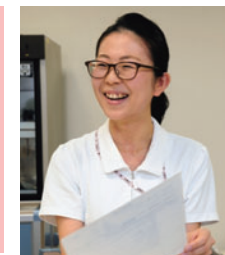
病棟スタッフ

特徴

呼吸器疾患の場合、自宅に帰っても酸素治療を継続する患者さんが多くいます。そういう方には入院中から家庭で治療の継続ができるように、わかりやすく指導するよう心掛けています。呼吸状態がひどくなると人工呼吸器を使用する場合もありますが、出来る限り早く人工呼吸器がとれてご自宅に帰れるよう多職種のスタッフ（医師・看護補助員・リハビリ技師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・在宅療養支援専任看護師）と連携を図っています。

慢性呼吸器疾患看護認定看護師の紹介

新館 7 階東病棟では、以前からたくさんの呼吸療法認定士の資格を持つ看護師がいましたが、今年度、更に専門性をきわめた“認定看護師”が誕生しました。患者さんやご家族の要望を確認させていただきながら、他の看護師への指導・支援を行いよりよい看護ケアを提供しています。



慢性呼吸器疾患看護認定看護師：齋藤利英

私は呼吸困難や病気と向き合いながら生きていく患者さんの姿を見て、より専門的な知識を身に付け、患者さんの望む人生のお手伝いがしたいと思い資格を取得しました。呼吸器の病気を抱える患者さんは、薬物療法や酸素療法など様々な治療が必要となります。患者さんご家族が、病気を理解し治療を選択して、安心して療養生活を送ることができるようにサポートしています。また、スタッフの教育・指導にも取り組み、スタッフ皆で多くの患者さんの笑顔が咲くよう努力しています。

呼吸療法認定取得を目指している看護師3年目の紹介



向かって左より酒野詩織、井田美紀、北市美沙紀

後輩が出来たことで指導する立場となり、責任も強く感じていますが、先輩方の助けを借りながら頑張っています。休日は同期で集まり食事を作ったり、外食に行き話をしたりすることで気分転換を図っています。大変な事もありますが、仕事とプライベートを両立し、その方にあった看護を提供していきます。

（記：新館 7 階東病棟 師長 村上 美紀）

病棟薬剤師について

病棟薬剤師による患者さん中心の医療サービス向上にむけて

病棟薬剤師とは

当院では各病棟に1～2名の薬剤師が担当しており、主に患者さんに対して、次のような業務を行っています。

- ① 患者さんの病気や状態によっては投与してはいけないお薬や、お薬によるアレルギーの有無を確認
- ② お持ちいただいたお薬の内容を調べ、現在の患者さんの状態に適しているか確認
- ③ 患者さんの状態に見合ったお薬を医師が処方するために、有効性、安全性を考慮し、選択、使用方法を薬の専門家として助言
- ④ お薬による副作用、飲み合わせのチェック
- ⑤ 病室で患者さん又はご家族へのお薬の説明（服薬指導）
- ⑥ 患者さんにとって最善の医療を医師、看護師、その他のスタッフと協力し、チームで行う

病棟薬剤業務導入の経緯、理由

当院は全病棟に担当薬剤師を配置し、前述の業務を行うことが、これまで諸般の事情で困難でしたが、患者サービスの向上と医療を安全に行うためには、病棟薬剤業務が必要不可欠であるとして導入となりました。

患者さんの入院がこう変わる！

- ① これまで薬剤師の関わりが少ないとされていた小児病棟や集中治療室において、専任の薬剤師が配置されます。
- ② 薬剤師が病棟で活動する時間が増えることで、今まで以上にきめ細やかな服薬指導をいたします。
- ③ 病棟薬剤師がお薬に関する業務を十分に担い、医師や看護師の業務負担を軽減するので、医師、看護師などの医療従事者が、その職種による専門性の高い、より良い医療サービスを行うことになります。
- ④ 皆さんにご提供する医療が、今まで以上に安全かつ確実に行われるようになります。



小児指導



集中治療

（記：薬剤部 薬物療法課 課長 高橋 喜統）

リハビリニュース

ICUでの超急性期リハビリテーションについて

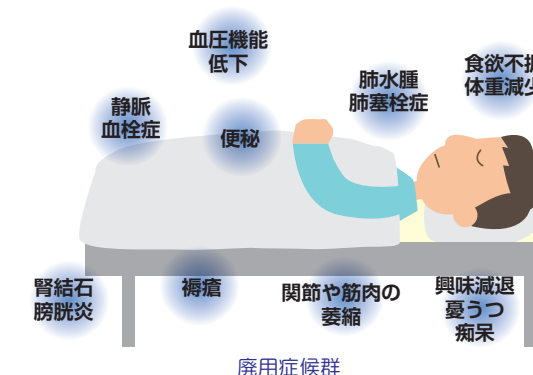
集中治療室（以下ICU）は集中的な治療が必要な、大変重症な患者さんが入室されています。リハビリがそのような現場で行われているのを皆さんはご存知でしょうか？

近年ICUにおいて超急性期からリハビリを行う取り組みが注目を集めています。従来の考え方は、体の状態が安定するのを待ってからリハビリを開始していました。しかし、それでは寝たきりでいる期間が長くなってしまい、使わなくなった筋肉をはじめ、呼吸・循環器系、消化器系、排尿・排便に関する機能や、摂食・嚥下機能、精神面など全身の様々な部分に廃用症候群（体を使わないことによる機能低下）を引き起こします。

リハビリを超急性期から開始し離床を早めることは、呼吸機能の改善や身体機能の改善、身の回りの動作能力の早期獲得、入院期間の短縮やQOL（人生の質）向上に効果があることが近年の研究で明らかになってきました。

超急性期から廃用予防に積極的に取り組むため、当院では2014年度からICUで理学療法士を半専属的に配置し、ICUに入室する重症患者さんは入院当日かその翌日にはリハビリが受けられるような体制を整えました。

右写真は人工呼吸器を付けた重症な患者さんに対して立位練習を実施しているものです。理学療法士は患者さんの運動能力の評価をしながら介助の仕方や介助量を決定し、重症患者さんでも安全に運動していけるように医師・看護師・臨床工学技士と連携し、チームで離床を図っていきます。また、医療者側からだけでなく、ご家族からの関与が重症患者さんには大変重要となり、回復を早めることも報告されていますので、ご家族のご面会時に合わせてリハビリの状況を報告させていただくこともございます。何かございましたらお気軽にご相談ください。



リハビリの様子

（記：医療技術部 リハビリテーションセンター主任理学療法士 村谷 俊幸）

研修医紹介

このページでは、当院で勤務する研修医を紹介します。
皆さまのお役に立てるよう頑張りますので、
今後とも宜しくお願い致します。

1年次初期臨床研修医

久保 絵里香 (くぼ えりか)
石川県出身

【医師を志したきっかけ】

小さい頃は体調を崩しやすかったこともあり、近くの内科の先生に親身になって頂いたことが医師を志したきっかけです。また、父が歯科医であり医療が身近であったことも大きいように思います。全身を診ることができる医師という仕事に興味を持ち、中学生の頃には医師を目指すようになりました。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

ある内科を研修中、口から食事を摂る事が難しい患者さんがいました。今後どのように栄養を摂取していくか、上級医や看護師など多職種間で何度も話し合いが行われている場面に遭遇しました。患者さん本人やご家族の意見を尊重しながら、最善の方法を様々な観点から考えている様子からチーム医療の大切さを実感しました。私も医療を行うチームの一員として、親身に患者さんに寄り添い、医療を行えるよう日々精進していきたいと感じました。

1年次初期臨床研修医

矢野 博士 (やの ひろし)
和歌山県出身



【医師を志したきっかけ】

小学校低学年の頃、祖父が癌で闘病していた際、優しく寄り添ってくれる先生の姿を見て、幼いながらも、人の為に働けることってすごいことだなと感じたことが、私が医師を志したそもそものきっかけです。

それからしばらくは、医師という職業に対して漠然とした憧れしか持っていませんでしたが、中学生のとき、国境なき医師団の活動について深く知る機会があり、以降、将来は医師として人の役に立ちたいと強く思うようになりました。

その後、大学入学までは色々な経験をしながら回り道も多々してきましたが、酸いも甘いも、回り道の道中で得た色々な経験があって、医療的なことだけでなく、患者さんに色々な話をしながら接することができる今の自分があると自負しています。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

神経科精神科で研修をさせて頂いた際、患者さんとの関わり方や会話の重要性を改めて認識させられました。何気無い会話の中に、何が患者さんの身体の不調の原因になっているか、その不調に対してどういうアプローチをしていくのが最善なのかなど、ヒントが散りばめられていることに気付きました。

研修医に出来ることは、先輩医師の方々と比べればごく限られていますが、焦って高度な医療知識をあれやこれやとつまみ食いする前に、こういった基本的な部分を完璧にし、いち医師として成長していきたいと考えています。

お知らせ

ヘルスアップセミナー開催のお知らせ

～予防社会を見据えて～

日時 平成28年3月12日(土) 13:30～16:00

会場 金沢市文化ホール(金沢市高岡町15番地1号)

講演1部 「あなたの心臓ちょっとした知識が命を救う」～その対応とカテーテル治療について
講師:当院心血管カテーテル治療科長 北山 道彦教授

講演2部 「眠りの仕組みを理解する」

講師:金沢大学 医学系分子神経科学・統合生理学 櫻井 武教授

参加費 無料

同時開催 健康フェア～高齢化社会に安心な暮らしを～

時間 同日 10:00～13:30(最終受付13:00)

■当院の医師、専門スタッフが健康相談、健康チェックに応じます。

【健康相談】専門医による健康相談(認知症相談・糖尿病相談・貧血相談・胸痛相談・女性健康相談)

【栄養相談】食品見本でカロリーチェック

【健康チェック】ストレスチェック、血圧・血管年齢測定ほか

イベントのお知らせ

肝臓病教室のご案内

■場所／病院新館12階 特別会議室 ■時間／13:00～14:15

平成28年

- 4月18日 ●肝臓の働きと検査・肝炎治療医療費助成金について
- 6月13日 ●B型肝炎・慢性肝炎の食事について
- 8月 8日 ●C型肝炎・慢性肝炎の治療薬について
- 10月17日 ●肝炎ウイルス以外の肝臓病・肝臓病患者さんの日常生活
- 12月12日 ●肝硬変・肝硬変の食事について

平成29年

- 2月13日 ●肝がん・肝がんの治療薬について

■問い合わせ先／肝胆膵内科外来TEL.076-286-3511(内線4240)

みなさんのご参加をお待ちしております。

肝胆膵内科 堤 幹宏・土島 睦

